

講義録レポート

講義録コード

11-07-1-501-01

講 座	証券アナリスト	科目①	A
目標年	2007年合格目標	科目②	証券アナリスト1次試験を学習する前に！ こ・れ・は知っておきたい！
コース	1次セミナー	回 数	1 回
用 途	☒ 個別DVD ・ ☒ テープレクチャー ・ ☐ 集合ビデオ ☒ WEB ・ ☐ 衛星 ・ ☒ カセット通信 ・ ☒ DVD通信 ・ ☐ 資料通信		

収録日	2006 年 5 月 19 日		
講師名	岩本 先生	講義録 枚数	2 枚 ※レポート 含まず
		補助レジュメ 枚数	12 枚 (サイズ)

講義構成	(58) 分		
使用教材			
配布物	有 ☐ 無 ☒		
正誤表	有 ☐ 無 ☒ 枚		
備考			
	○ 共通レジュメ 有 ☐ 無 ☒ 第 () 回講義と共通		

証券アナリスト講義録	科目 証券アナリスト 1次試験を 学習する前に!	コース 1次・セミナー	回数	A
------------	--------------------------------	-------------	----	---

配布物	★ミニテスト：あり [] なし ★実力テスト：あり [] なし ◇配布物なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説 ★その他のレジュメ []	講師 岩本 先生
-----	--	--------------------------------------	----------

テキスト ページ	黒 板 内 容
	「社団法人 日本証券アナリスト協会」 (1次) —————→ (2次) 4月 10月 6月 「証券投資論」 ← 協会テキスト(8回分) (1次) 株式分析・ファンダメンタル分析 財務 ← 証券 経済 ↑ ↓ コーポレート ファイナンス 計量・統計 (3冊)

証券アナリスト講義録				科目	証券アナリスト 1次試験を 学習する前に!	コース	1次・セミナー	回数	A
------------	--	--	--	----	-----------------------------	-----	---------	----	---

配布物	★ミニテスト：あり [] なし	★答 練：問題用紙・解答用紙・解答解説	講師	岩本 先生
	★実力テスト：あり [] なし	★その他のレジュメ []		
	◇配布物なし			

テキスト ページ	黒 板 内 容
	基本期 ← 6月～12月 ↓ ◎ 過去問題集 (3年分) (12月～2月) デューレーション

『証券アナリストを学習するための準備セミナー』

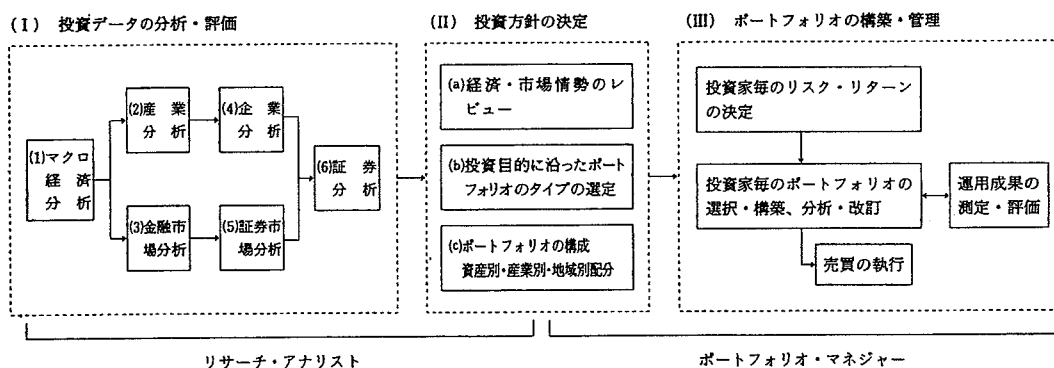
1. 証券アナリストとは・・・

『証券アナリストとは証券投資の分野において、高度の専門知識と分析技術を応用し、各種情報の分析と投資価値の評価を行い、投資助言や投資管理サービスを提供するプロフェッショナルのことをいいます。』

近年、資本市場の発達と高度化に伴って、証券アナリストの所属する業態は大きく広がるとともに、一層専門化が進んでいます。例えば、証券会社の調査部門などに所属し、産業・企業調査を基に、個別証券の分析・評価を行うのがリサーチ・アナリスト(狭義の証券アナリスト)です。一方、投資信託・投資顧問、信託銀行、保険などの機関投資家には、さまざまな投資目的に合った証券を組合わせて、総合的な資産運用に携わるポートフォリオ・マネジャー(ファンド・マネジャー)という専門職があります。このほか、投資ストラテジスト、投資アドバイザー、マーケット・アナリストなど、それぞれの職能に応じた呼称もあります。

このように、今日の証券アナリストは、一連の投資意思決定過程に参画するプロフェッショナルを総称するものとなっています。

(資料1) 投資意思決定過程におけるアナリストの機能



(出所) ㈱日本証券アナリスト協会作成資料

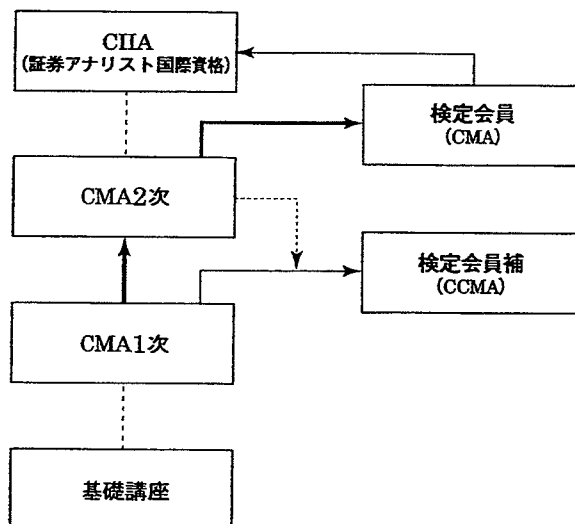
(資料2) 証券アナリスト第2次試験業態別合格者数

(括弧内は構成比%、受験時の所属による)

業態別	年	昭和56～ 平成11年	12年	13年	14年	15年	16年	合 計
証 券 会 社		4,035名 (27.1)	194名 (15.3)	238名 (14.6)	247名 (14.3)	215名 (14.1)	180名 (11.3)	5,109名 (22.6)
投 信 委 託		873 (5.9)	25 (2.0)	33 (2.0)	43 (2.5)	47 (3.1)	47 (3.0)	1,068 (4.7)
投 資 顧 問		596 (4.0)	26 (2.0)	25 (1.5)	34 (2.0)	31 (2.0)	29 (1.8)	741 (3.3)
銀 行		3,714 (24.9)	471 (37.2)	567 (34.9)	552 (32.0)	497 (32.5)	514 (32.4)	6,315 (27.9)
信 託 銀 行		1,410 (9.5)	125 (9.9)	173 (10.6)	142 (8.2)	117 (7.7)	111 (7.0)	2,078 (9.2)
生 命 保 険		1,533 (10.3)	157 (12.4)	195 (12.0)	187 (10.8)	150 (9.8)	166 (10.5)	2,388 (10.5)
損 害 保 険		466 (3.1)	46 (3.6)	48 (3.0)	54 (3.1)	48 (3.1)	44 (2.8)	706 (3.1)
調 査 研 究 所		1,244 (8.3)	29 (2.3)	39 (2.4)	37 (2.2)	23 (1.5)	24 (1.5)	1,396 (6.2)
公 認 会 計 士		163 (1.1)	3 (0.2)	9 (0.6)	10 (0.6)	10 (0.7)	14 (0.9)	209 (0.9)
そ の 他		866 (5.8)	191 (15.1)	299 (18.4)	419 (24.3)	390 (25.5)	457 (28.8)	2,622 (11.6)
合 計		14,900 (100.0)	1,267 (100.0)	1,626 (100.0)	1,725 (100.0)	1,528 (100.0)	1,586 (100.0)	22,632 (100.0)
うち女性 大学生		744 18	65 12	96 26	127 42	93 45	106 53	1,231 196

2. 証券アナリストの教育体系

(資料3) 教育体系の全体図



CMA® : Chartered Member of the Security Analysts Association of Japan

CCMA : Candidate for CMA

CIIA® : Certified International Investment Analyst

3. 証券アナリスト試験の体系

(資料4) 出題内容・形式

	試験時間	出題内容・範囲	出題形式
1次試験 (科目別)	経済：90分 財務分析：90分 証券分析とポート フォリオ・マネジメ ント：180分	証券分析業務に必要な基 礎的な知識および分析力 を問う。 原則として基本テキスト ・通信テキストから出題 される。	すべて正解が1つの客観 問題(計算問題、穴埋め問 題を含む選択肢問題中 心)。 答案用紙にマークシート 使用。
2次試験 (総合)	420分 (1次3科目総合 360分+職業倫理・ 行為基準60分)	証券分析業務に必要なよ り高度の知識と実務への 応用力および職業倫理の 習得を問う。 テキストの内容が必ずし もそのまま引用されるわ けてはない。	計算問題等も一部に出題 されるが、大部分が記述式 の応用問題。 正解は1つとは限らず、採 点に際して回答に至る論 旨展開が重視される。

(資料5) 最近5年の合格率推移

	1次試験 ^(注)				2次試験		
	実人数 受験者	3科目延べ人数			受験者	合格者	合格率(%)
		受験者	合格者	合格率(%)			
平成12年	10,461	19,043	8,612	45.2	4,138	1,267	30.6
13年	9,825	18,088	8,620	47.7	4,422	1,626	36.8
14年	9,280	17,129	7,793	45.5	4,228	1,725	40.8
15年	8,348	15,376	7,327	47.7	3,901	1,528	39.2
16年	6,562	11,828	5,206	44.0	3,496	1,586	45.4

(注) 1次試験では複数科目を受験した受験者が、ある科目は合格し他の科目は不合格となるケースもあるので、実人数を基準にした合格率は算出していない。

＜ CMA プログラムの改定 ＞

(1) 最新プログラムの提供

発展しつつある分野、今後発展が見込める分野をカリキュラムに大幅に取り込む。

(2) 柔軟なプログラムの提供

金融実務・理論の進展に応じてカリキュラムを柔軟に変更できるシステムの構築。実践的かつ学際的なプログラムの提供。

(3) 学びやすいプログラムの提供

1 次と 2 次の学習内容を明確に区別。必須教材の絞込み。金融実務に必要な知識・能力が体系的かつ効率的に身に付くプログラム。

■1. 通信教育について

上で述べた改訂の方針を実現するために、通信教育は以下の改定が望まれる。

(1) 通信テキストで完結する教育体系

現在のプログラムは基本テキストをベースに通信テキストはこれを補完するという体系であるが、カバー範囲が広範になり受講者にとっては負担感が大きい。受講者利便のために通信テキストで完結する体系としたい。現行の基本テキストは原則として「推奨テキスト」に指定する。

(2) 新分野の採用、重要性が増しつつある分野のウエート増

新分野：行動ファイナンス、信用リスクモデル

ウエート増分野：ミクロ経済学、コーポレート・ファイナンス

(3) 2 次レベルの科目分け変更

次の科目分けとし、科目間のウエートも柔軟に変更する。

- 市場と経済の分析
- コーポレート・ファイナンスと企業分析
- 証券分析とポートフォリオ・マネジメント
- 職業倫理・行為基準

(4) 計量分析と統計学の取扱い

「計量分析と統計学」は現行では 1 次レベルで 3 冊のテキストとなっており、多くの受講者にとって負担感が大きく、結果として未消化となっている場合もある。「計量分析と統計学」は 1 次、2 次各一冊とし、学習の平準化・効率化を図る。

(5) 試験について

1 次試験は 3 科目合格が 2 次に進む要件であり、現行の年 1 回試験では 1 科目僅差でミスしたために 1 年棒に振ることもあり得る。1 次試験は年 2 回実施することが望ましい。この場合、秋期試験 (2 回目) で 3 科目合格になった人も、申し込みをすれば翌年春の 2 次試験を受験可能とする。なお、現在の 1 次試験の時間配分や難易度は概ね妥当と考えられる。

添付文書 1. コア知識

(1) コア知識について

- ・コア知識は各分野において学習する主要事項を一覧できるように列挙したものです。
- ・学習を始める前の全体像の把握、学習途上の進捗状況チェック、試験前の理解度チェック等にご活用ください。

(2) 重要度について

- ・学習の便宜を図るために、重要度を★で示しています。★★★★は最も基本的な事項を示します。★の数が少ないものは、より詳細な事項、あるいは高度な事項を示します。
- ・★の数は、基本的な概念を体系的に学習するための重要性を示しており、試験における配点割合や出題頻度を示すものではありません。
- ・★★★★項目は理解の柱となる点ですので、十分に習熟されるようにしてください。

(3) レベル分けについて

- ・レベル欄の「2次」は2次レベルで学習する事項、「1次／2次」は1次レベルで基本的事項を2次レベルでより高度な事項を学習することを示します。
- ・レベル指定がない事項は1次レベルの学習・試験項目ですが、2次レベルでも試験対象になります。

以上

CMA コア知識「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」

項目	重要度	レベル
1. 証券市場と経済		
証券投資のリターン	★★	
株式と債券のリターン源泉	★★	
証券の種類と証券市場の仕組み	★★	
経済動向と証券リターン	★★	
産業動向と証券分析・リターン	★★	
2. 企業の分析		
BSとPL	★★★	
キャッシュフロー	★★★	
営業・財務レバレッジ	★★★	
PER, PBR	★★★	
財務分析と格付	★★★	
企業の競争戦略	★★	
産業分析～競争戦略～BS/PL (ケース)	★	2次
3. 収益率 (リターン)		
収益率の定義	★★★	
事前・事後の収益率	★★	
複利利回り	★★★	
幾何平均と算術平均	★★★	
連続時間複利	★★	
現在価値・将来価値	★★★	
キャッシュフロー割引と資産価値		
①NPV	★★★	
②IRR	★★★	
③DDM	★★★	
要求収益率 (割引率) の決定	★★★	
金額加重平均と時間加重平均	★★	
債券利回り (IRR)	★★★	
スポットレートと債券価格	★★	
フォワードレート	★★	
4. リスク		
分散と標準偏差	★★★	
正規分布	★★★	
共分散と相関係数	★★★	
ポートフォリオとリスク	★★★	
5. 現代ポートフォリオ理論		
投資家の選好と効用無差別曲線	★★★	
平均分散モデルと効率的フロンティア	★★★	
資本市場線と分離定理	★★★	
CAPMとベータ、証券市場線	★★★	
効率的市場仮説	★★	
無裁定条件とリスク中立確率	★★	

項目	重要度	レベル
6. ポートフォリオのリスクとリターン		
(1)株式ポートフォリオ		
CAPMとベータ、シングル・インデックス・モデル	★★★	
CAPMとアノマリー	★★	
マルチ・ファクター・モデルとAPT	★★	1次/ 2次
リスクの管理 (ベータ、TE)	★★★	
パフォーマンス評価 (Sharpe Ratio, IR)	★★★	
(2)債券ポートフォリオ		
デュレーション	★★★	
コンベクシティ	★★	
利回り曲線の形状変化	★★	
イミュニゼーション	★	
デフォルトリスク / 格付と社債利回り	★★	
(3)最適ポートフォリオの決定		
無リスク資産とリスク資産 (2資産) の最適化	★	
3資産の最適化	★	2次
多期間の最適化	★	2次
7. デリバティブ (オプションと先物)		
先物・フォワード・スワップ	★★★	
コールとプット	★★★	
オプション投資戦略	★★★	
2項モデル	★★	
リスク中立確率	★★	
プット・コール・パリティ	★	
ブラックショールズモデル	★★	1次/ 2次

(続く)

(続き)

8. 投資の意思決定プロセス		
(1)投資政策		
要求収益率と制約条件	★★	1次/ 2次
リスク許容度と最適ポートフォリオ	★★★	1次/ 2次
投資政策書	★★★	1次/ 2次
企業年金～リスク・バジェット ィング、VaR、年金 ALM	★★	2次
個人投資家～ライフサイクル、 人的資本	★	2次
(2)アセット・アロケーション		
ポリシー・アセット・アロケー ション	★★★	1次/ 2次
タクティカル・アセット・アロ ケーション	★★	2次
ダイナミック・アセット・アロ ケーション	★★	2次
ライフサイクルと長期のアセッ ト・アロケーション	★	2次
(3)投資対象の多様化		
オルタナティブ投資	★★	2次
国際投資	★★	2次

(4)マネジャーの選択		
スタイル分析	★	2次
アクティブとパッシブ、マネ ジャー選択と評価	★	2次
(5)投資パフォーマンスの評価と測 定	★★	2次
9. 金利の期間構造モデルと信用 リスク		
金利の期間構造モデル	★	2次
信用リスクモデル	★	2次
クレジットデリバティブ	★	2次
10. 行動ファイナンス		
行動ファイナンスから見たアノ マリー	★	2次
裁定の限界	★	2次
投資家のバイアス	★	2次
投資家の選好と行動ファイナンス	★	2次
11. 統計（上記に含まれるものを 除く）		
回帰分析	★★	
統計的検定	★	2次
多変量分析	★	2次

CMA コア知識「財務分析」「コーポレート・ファイナンスと企業分析」

1. 「財務分析」のうちの「財務会計」分野 コア知識

項目	重要度	レベル
1. 企業会計制度と会計情報の有 用性		
財務諸表の利用者と分析視点	★★	
投資分析のための会計情報の利用	★★	
主要な財務諸表（B/S、P/L、CF 計算書）	★★★	
2. 企業会計の仕組み		
取引のデータ処理	★★	
経過勘定の役割	★★	
資本と利益—収益の認識と費用 の配分	★★★	
3. 収益の測定		
事業投資の収益	★★★	
有価証券の評価	★★	
デリバティブの評価とヘッジ会計	★★	2次
4. 費用の測定		
棚卸資産の原価配分	★★★	
有形固定資産の減価償却	★★★	
資産の評価損と減損処理	★★	
リース取引（借手側）	★★	

項目	重要度	レベル
5. 退職給付会計	★★	1次/ 2次
6. 税効果会計	★★★	1次/ 2次
7. 外貨換算会計		
外貨建取引の換算	★★	1次/ 2次
在外子会社の財務諸表の換算	★★	1次/ 2次
8. 新株予約権（条件付持分）の 会計		
ワラント債・転換社債の会計処理 （発行側）	★★	2次
ストック・オプション（株式報 酬）の費用計上	★★	2次
9. 企業結合会計		
(1)企業再編の会計		
合併・買収	★★★	1次/ 2次
事業分離	★★	2次
(2)連結会計	★★★	1次/ 2次

(続く)

(続き)

10. 1株当たり当期純利益 (EPS) の算定・開示		
利用目的	★★★	
基準の概要	★★	1次/ 2次
11. 最近のトピッカー包括利益等	★★	2次

2. 「財務分析」のうちの「財務諸表分析」分野 コア知識

項目	重要度	レベル
1. 時系列分析とクロスセクション分析	★★	
2. 収益性の分析		
売上高利益率	★★	
ROA、ROEと財務レバレッジ効果	★★★	
デュポン・システム (ROEの3要因分析)	★★★	
資産利用効率性 (回転率) の分析	★★	
付加価値生産性の分析	★	
3. 安全性の分析		
ストック比率 (伝統的静態比率) による分析	★★	
フロー比率による分析	★★★	
キャッシュフロー計算書による分析	★★	
損益分岐点分析と営業レバレッジ	★★	
4. 成長性の分析		
サステナブル成長率モデル	★★★	
PVGO モデル	★★	
利益総額の成長とEPSの成長	★★	
5. 株式価値・企業価値評価モデルの利用と価値創造の分析		
(1) 配当割引モデルと割引キャッシュフロー (DCF) モデル		
配当割引モデルと株式価値評価 DCF モデル	★★★	1次/ 2次
企業価値評価 DCF モデル	★★	2次
キャッシュフロー計算書による FCF との相違点	★★	2次
(2) スtock指標を組み入れた評価モデルと価値の創造		
利益計上と価値創造	★★	
残余利益 (RI) モデル	★★★	1次/ 2次
経済的利益 (EVA) モデル	★★	2次

項目	重要度	レベル
6. 業績予測の実際		
売上高・利益増減の要因分析	★★	
業績予想モデルの利用	★★	2次
定性分析の重要性	★★	2次
7. 信用リスク分析における財務指標の利用		
株主の視点と債権者の視点	★★★	
社債格付けモデルと財務指標	★	2次
倒産予測モデルと財務指標	★	2次
8. 会計情報と資本市場 (実証分析)		
利益情報と株価	★	2次
会計情報と証券投資戦略	★	2次

3.「コーポレート・ファイナンスと企業分析」コア知識

項目	重要度	レベル
1. 企業の目的とファイナンシャル・マネジャーの役割	★★	2次
2. 資本コスト		
資本コストの概念（負債コスト、株主資本コスト、WACC、個別事業）	★★★	2次
資本コストの計測（CAPMの利用、評価モデルからの逆算）	★★	2次
3. 投資決定		
投資決定基準（NPV、IRR、回収期間等）	★★★	2次
キャッシュフローの把握	★★	2次
リアル・オプション価値	★★	2次
4. 企業の資金調達		
資金調達方法の分類（内部 vs 外部、エクイティ vs デット等）	★★	2次
外部資金調達の諸形態（株式、社債、借入金、リース等）	★★	2次
5. 資本構成		
事業リスクと財務リスク	★★★	2次
資本構成と企業価値（完全市場下 vs 現実の市場における考慮点）	★★★	2次
6. 配当政策と自社株買い		
配当政策（完全資本市場下 vs 現実の市場における考慮点）	★★	2次
自社株買い（完全資本市場下 vs 現実の市場における考慮点）	★★	2次

項目	重要度	レベル
7. 企業価値・株式価値の評価		
企業価値の評価（割引キャッシュフロー法、EVA と MVA）	★★★	2次
株式価値の評価（配当割引モデル、PVG0、残余利益モデル）	★★	2次
8. 企業の合併・買収（M&A）		
M&Aの諸形態（合併、株式取得、営業譲渡、TOB等）	★★	2次
M&Aの動機（シナジー効果、税制、多角化等）	★★	2次
9. 財務のリストラクチャリング（資産の証券化、事業分離、バリエアウト、純粋持株会社、子会社上場等）	★★	2次
10. 企業のリスク・マネジメント（直面するリスクの種類、リスク・マネジメントのプロセス、デリバティブの利用、退職給付債務等）	★	2次
11. オプションとコーポレート・ファイナンス（オプションとしての株式と負債、新株予約権付社債、コール条項付社債、リアル・オプション等）	★	2次

CMA コア知識「経済」

項目	重要度	レベル
1 経済活動と経済学		
1.1 経済と投資意思決定プロセス		
1.1.1. 経済と資産市場・企業	★★★	
1.2 国の経済		
1.2.1 国民経済計算の概略	★★	
(1)国民所得勘定	★★	
(2)資金循環勘定	★	
1.2.2 経済活動の主体		
2 ミクロ経済学		
2.1 ミクロ経済学の基礎		
2.1.1 消費者行動	★★★	
(1)選好関係と効用関数	★★★	
(2)需要曲線の決まり方	★★	
(3)需要曲線の傾き（価格弾力性）	★	
(4)消費者余剰	★	
(5)所得効果・代替効果	★	
(6)労働供給	★	

項目	重要度	レベル
2.1.2 企業行動	★★★	
(1)費用曲線と利潤最大化	★	
(2)生産関数とは	★	
(3)供給曲線の決まり方	★	
(4)生産要素の需要	★	
2.1.3 市場均衡	★★★	
(1)完全競争の理論	★★★	
(2)市場価格の決まり方	★★★	
(3)最適性と市場均衡	★★★	
2.1.4 不完全競争市場	★	
(1)独占企業の行動	★	
(2)寡占市場とは	★	
(3)クールノー競争・ベルトラン競争	★	
2.1.5 市場の失敗	★	
(1)外部性	★	
(2)公共財	★	
(3)費用低減産業	★	

(続く)

(続き)

2.2 ファイナンスのためのミクロ経済学		
2.2.1 異時点間の効用最大化と消費行動	★★★	
(1)貯蓄の決定	★★★	
(2)金利の影響	★★★	
(3)割引現在価値	★★★	
2.2.2 不確実性下の選択	★★★	
(1)不確実性とリスク	★★★	
(2)リスク選好度	★★★	
(3)資産の需要	★★★	
(4)状態価格	★★★	
2.3 新しいトピックス		1次/ 2次
2.3.1 ゲーム理論	★★	
(1)ナッシュ均衡	★★	
(2)競争と協力	★★	
(3)コミットメントの重要性	★★	
(4)オークション理論	★★★	
2.3.2 情報の経済学	★★★	
(1)逆選択	★★★	
(2)エイジェンシー問題	★★★	
(3)シグナリング	★★★	
3 マクロ経済学		
3.1 国民所得統計とGDPの決定		
3.1.1 GDPの決定	★★★	
3.1.2 3面等価と経済的均衡の概念	★★	
3.1.3 乗数	★★	
3.2 IS-LM分析		
3.2.1 IS曲線	★★	
(1)消費関数	★	
(2)投資関数	★	
3.2.2 LM曲線-貨幣市場の均衡と利子率の決定	★★	
3.2.3 IS-LM分析	★★	

3.3 AD-AS分析		
3.3.1 AD曲線	★★	
(1)物価変動と総需要	★★	
(2)実質利子率とフィッシャー効果	★★	
3.3.2 AS曲線	★★	
(1)賃金の伸縮性と総供給曲線	★	
(2)インフレと失業	★	
(3)合理的期待	★★	
3.3.3 AD-AS分析	★★	
3.4 金融と財政		
3.4.1 金融の機能	★★	
(1)金融市場と金融仲介機関の役割	★★	
(2)中央銀行と金融政策	★★	
3.4.2 財政	★★	
(1)財政政策の役割	★	
(2)公債発行に関わる問題	★★	
3.4.3 長期金利の決定要因	★★	
4 マクロダイナミクス		
4.1 インフレーションとデフレーション		
4.1.1 定義と種類	★★	
4.1.2 インフレーション/デフレーションのコスト	★★	
4.2 経済成長		
4.2.1 経済成長をもたらす要素	★★	
4.2.2 経済成長理論	★★	
4.3 景気循環		
4.3.1 外生的景気循環理論	★★	
4.3.2 内生的景気循環理論	★★	
4.3.3 財政・金融政策と景気循環	★★	
5 国際経済学		
5.1 国際収支と資本移動		
5.1.1 国際収支表	★★	
5.2 為替レート決定理論	★★★	
5.2.1 金利平価	★★★	
5.2.2 購買力平価	★★★	
5.2.3 ポートフォリオ・バランス・アプローチ	★★	
5.2.4 外国為替市場介入の有効性と金融的側面	★★	
5.3 国際マクロ経済学		2次
5.3.1 マンデル=フレミング・モデル	★★	
5.3.2 2国モデル	★★	
5.3.2 2期間モデル	★★	
6 日本の証券・金融市場の現状	★★	2次
7 経済予測と金利予測	★★	2次
8 日本および国際経済・金融の諸問題	★★	2次

添付文書2. 通信テキスト体系

第1次レベル 証券分析とポートフォリオ・マネジメント

テキスト	執筆者（敬称略）
①証券分析とポートフォリオ・マネジメントの基礎	鈴木行生（野村ホールディングス）
②計量分析と統計学(1)	小林孝雄（東京大学）、本多俊毅（一橋大学）
③現代ポートフォリオ理論	小林孝雄（東京大学）、本多俊毅（一橋大学）
④証券市場の機能と仕組み	川北英隆（同志社大学）
⑤企業のファンダメンタル分析	薄井彰（早稲田大学）
⑥株式分析	高橋文郎（青山学院大学）
⑦債券分析	金崎芳輔（東北大学）、岡東務（阪南大学）
⑧デリバティブ分析	太田智之（野村證券）
⑨ポートフォリオ・マネジメント・プロセス	山口勝業（イボットソン・アソシエイツ・ジャパン）、小松原宰明（同）

第2次レベル 証券分析とポートフォリオ・マネジメント

テキスト	執筆者（敬称略）
①計量分析と統計学(2)	小林孝雄（東京大学）、本多俊毅（一橋大学）
②株式ポートフォリオ戦略	大野三郎（ソシエテ ジェネラル アセット マネジメント）
③債券ポートフォリオ戦略	新井富雄（東京大学）、太田智之（野村證券）
④デリバティブと投資戦略	大橋和彦（一橋大学）
⑤投資政策・プロセスと実行	小林弘明（みずほ総合研究所）
⑥アセット・アロケーション	浅野幸弘（横浜国立大学）
⑦オルタナティブ投資	宮井博（日興フィナンシャル・インテリジェンス）、石橋博（住信基礎研究所）、大橋和彦（一橋大学）、高橋文郎（青山学院大学）、四塚利樹（早稲田大学）、榊原茂樹（神戸大学）
⑧国際証券投資	諏訪部貴嗣（ゴールドマン・サックス証券）
⑨投資パフォーマンスの測定と評価	藤林宏（住友信託銀行）、後藤浩（フランク・ラッセル）、乗原洋（中央青山監査法人）
⑩信用リスクモデル	森平爽一郎（慶應義塾大学）
⑪行動ファイナンス	小幡績（慶應義塾大学）

（続く）

(続き)

第1次レベル 財務分析

テキスト	執筆者 (敬称略)
①証券アナリストと財務分析	米山正樹 (早稲田大学)
②主要な財務諸表	伊藤邦雄 (一橋大学)
③企業会計の仕組み	川本淳 (学習院大学)
④収益の測定	筒井知彦 (法政大学)
⑤費用の測定	中條祐介 (横浜国立大学)
⑥その他の主要会計分野	大雄智 (横浜国立大学)
⑦財務諸表分析の基礎	桜井久勝 (神戸大学)
⑧株式価値評価モデル	八重倉孝 (法政大学)

第2次レベル コーポレート・ファイナンスと企業分析

テキスト	執筆者 (敬称略)
①コーポレート・ファイナンス(1) 資本コスト 投資決定	高橋文郎 (青山学院大学)、新井富雄 (東京大学)
②コーポレート・ファイナンス(2) 財務政策 企業価値	高橋文郎 (青山学院大学)
③コーポレート・ファイナンス(3) 実践的諸問題	鈴木一功 (中央大学)、高橋文郎 (青山学院大学)、芹田敏夫 (青山学院大学)、谷川寧彦 (早稲田大学)
④財務会計をめぐる諸問題(1) 企業統合会計等	秋葉賢一 (企業会計基準委員会)
⑤財務会計をめぐる諸問題(2) 最近のトピックス	辻山栄子 (早稲田大学)
⑥企業分析に係る諸問題	鈴木一功 (中央大学)、白田佳子 (芝浦工業大学)、八重倉孝 (法政大学)
⑦企業分析 (ケース)	

第1次レベル 経済

テキスト	執筆者 (敬称略)
①経済活動と経済分析	川北英隆 (同志社大学)、檀浩一 (ニッセイ基礎研究所)
①-2 経済学のための数学	小林孝雄 (東京大学)、本多俊毅 (一橋大学)
②消費者行動と企業行動	倉澤資成 (横浜国立大学)
③市場均衡と市場の失敗	同上
④ファイナンスのためのミクロ経済学(1)	大橋和彦 (一橋大学)
⑤マクロ経済学の基礎	吉川洋 (東京大学) 監修、飯田泰之 (駒澤大学)
⑥金融と財政	鹿野嘉昭 (同志社大学)
⑦マクロダイナミックス	齊藤誠 (一橋大学)
⑧国際収支と為替レート	深尾光洋 (慶應義塾大学)

第2次レベル 市場と経済の分析

テキスト	執筆者 (敬称略)
①ファイナンスのためのミクロ経済学 2- ゲーム理論と情報の経済学	柳川範之 (東京大学)
②国際マクロ経済学	小川英治 (一橋大学)
③日本の証券・金融市場	宇野淳 (早稲田大学)、梅田雅信 (日本銀行)
④経済動向予測と金利予測	小峰隆夫 (法政大学)
⑤日本経済・金融の諸問題	岩田規久男 (学習院大学)
⑥国際経済・金融の諸問題	堀井昭成 (日本銀行)、高橋亘 (同)

(課題・執筆者は一部変更されることもあります。執筆者所属は平成18年2月現在)